

山形コロニー ういる天童 自己評価表 【放課後等デイサービス】

山形コロニー ういる天童では、事業所が提供するサービスの質について、評価・点検を実施しました。より良いサービス提供を目指すとともに、自己評価を公表することで、地域のみなさまに安心して利用していただくことを目的としています。

なお、この自己評価表は厚生労働省が定める「児童発達支援ガイドライン」及び「放課後等デイサービスガイドライン」をもとに作成した「保護者向けアンケート」の回答結果、及び自事業所の自己チェックとなる「事業所向けアンケート」の意見等を踏まえ、「自己評価」としてまとめたものです。

○：おおむね良好といえる

▲：より良くしていきたい

×：改善が必要

		チェック項目	保護者向けアンケートによるご意見等	自己評価	改善目標・工夫している点など
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	○	▲	・小さな施設ですので、個々の計画や目的に応じた活動ができるよう、活動室の選定や地域の公共施設等を活用するなどして工夫しています。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	○：きちんと子供を見て支援してくれている。	○	・当事業所は人員基準を超える職員を配置しております。また、全てが保育士での有資格者です。
	③	事業所の設備等は、バリアフリー等の配慮が適切になされているか	○	▲	・玄関等に段差があり、バリアフリー施設ではないので、全ての方がアクセスできるよう、合理的配慮をとる体制を整備しています。今後、スロープ等の設置も検討していきます。
	④	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか	—	○	・開所前後の清掃や使用する遊具等の消毒等は、日常業務として実施し、安心安全な環境づくりに努めています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	—	○	・計画に沿った支援を提供できるよう、週単位のミーティングと、支援前後に行う日々のミーティングを行い、PDCA管理の実践をしています。
	⑥	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	—	○	・今後も、ご意見をいただきながら、より良いサービスの提供に努めます。
	⑦	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	—	○	・このアンケート結果の公表も、情報公開の取り組みになります。
	⑧	第三者による外部評価を行い、調査結果を業務改善につなげているか	—	○	・今年度は、県の実地指導を受けました。このような第三者の指導等を大切に活かし、より良い業務管理と法令順守に努めています。なお、当法人では、適正な運営をしているかを、事業所間で確認し合う内部監査を今年度から実施しています。
適切な支援の提供	⑨	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	—	○	・研修計画に基づくOJT、OFFJT等、必要な研修機会を確保しています。また、今年度は主催研修会を開催し、保護者や関係機関、地域等が参加できる研修機会も提供しました。 ・職員向けは、今年度の重点専門研修として「ペアレントトレーニング研修」を毎月実施し、支援力の向上に力を入れてきました。
	⑩	子どもと保護者のニーズや課題等を捉えた放課後等デイサービス計画が作成されているか	○	○	・保護者や利用児との対話や、学校等との連携により、現状の課題やニーズを丁寧に確認し計画を立てています。目標が1つ1つ達成できるよう意識したプランを大切にしています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	—	○	・独自のアセスメントツールを使用し、必要な情報の把握に努めています。今後、この情報を、より効果的に活かしていくよう、支援管理の強化を目指していきます。
	⑫	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われているか	—	○	・計画を共有し、ねらいを持った活動機会を設定し、意図的な関わりや支援を提供できるよう、日常から職員間で確認して支援しています。
	⑬	活動プログラムの立案をチームで行っているか	—	○	・支援者ミーティングの中で、個別支援計画に基づいて、個別支援プログラムを考えています。
	⑭	活動プログラムは、個々の計画等に応じた工夫がなされているか	○：学校休業日等には、電車等の利用体験は素晴らしいと思う。	○	・各々の発達段階、課題等に応じて、活動プログラムの設定を考えています。特に、将来の自立や就労を見据え、生活力を高める機会や、社会的資源や職業等を実際に体験する機会を持ち、経験を通じ、分かることや出来ることを広げていく支援を提案しています。
	⑮	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	—	▲	・活動設定や支援内容について、日々十分な検討を行い、サービス提供しています。今よりも、もっときめ細やかなサービス提供ができると思っていますし、実行していきたいと考えているため▲とします。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	—	○	・子どもの現状や課題等を勘案し、個別活動と集団活動それぞれにねらいを持って計画を作成しています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	—	○	・日々の支援予定表を作成して、支援者は、誰がいつ見ても1日の動きと支援内容、役割等がわかるよう管理しています。

	(18) 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	—	○	・支援終了後も、毎日振り返りを行い、支援の中で気付いた点等の報告や、それに対してより良い対応内容等の意見交換、次の課題設定等を話し合い、次の活動に繋げています。
	(19) 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	—	○	・職員には、第3者が見ても支援状況が正しく読み取れる記録できるよう研修しています。また、ミーティング時に職員間で記録の確認を行い、その記録をもとに支援を考えていきます。
	(20) 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	—	○	・定期的なものや必要時等、適宜モニタリングを実施し、計画内容の見直しや目標の再設定等を行っています。
	(21) ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	—	○	・「できた」「わかった」という嬉しい気持ちと、社会の中で必要となるルール学習を軸に、たくさんの体験の機会を提供できるように努めています。
	(22) 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	—	▲	・主に児童発達支援管理責任者が参加しています。今後は、直接的に関わる保育士等も、外部機関等との会議等で、計画に沿った報告や課題検討等を行えるよう、職員の育成も一層進めて行きたいと思います。
	(23) 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	—	○	・年間予定や月間予定表、時間割表等は保護者経由でいただいている。また日常的に保護者とは活動内容だけではなく、予定等の確認も行うよう心掛けており、学校行事での時間変更や、急な予定変更も、大きな混乱なく確認できています。 ・トラブル等があった際に、連絡先をしっかりと確保できるよう、緊急連絡先の把握も行っています。
	(24) 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	—	○	・医療的ケアを要する児童の受け入れ体制を持っています。 ・医療的ケアが必要のない児童でも、必要により、かかりつけ医等との連携や、服薬管理等のサポートを重視した支援を行っています。
関係機関や保護者との連携	(25) 子どもが他の放課後等デイサービスを利用している場合、放課後等デイサービス間で情報共有と相互理解に努めているか	—	▲	・相談支援事業所や他の事業所とも顔の見える関係を作り、放課後等デイサービス事業所も適宜開催しています。学校との連携と比較した場合、他の放課後等デイサービス事業所と、情報共有等のためにケース会議等を開催する頻度は少ない感じます。
	(26) 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	—	○	・当事業所を利用している児童は小1～小4ですので、まだ卒業を支援した児童がいません。しかし、当事業所の特色は、将来の就労を見据えた繋がりのある療育ですし、ベースが就労支援を専門とした法人ですので、その視点と支援実績、進路相談や職業訓練に係る支援体制は高いレベルで整備しています。
	(27) 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	—	○	・課題や問題意識を持って、専門機関等の研修等に精力的に参加しています。また、継続して発達障害等の専門医から指導を受け、日常のケース相談等も指導を受けています。
	(28) 地域の方々との交流や、地域の中で活動する機会があるか	○：芋煮会の活動で、親子で楽しく芋掘り体験ができた（地域の方と一緒に）。	○	・地域の学童クラブとは、子ども同士の交流機会はまだありません。支援者間では顔の見える関係を築いています。地域住民等との交流は、秋の収穫祭や芋煮会等で交流機会を持っています。
	(29) (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	—	○	・天童市の自立支援協議会は、開かれたものではなく、地域の事業所が参加できる形式を持っています。私たちは、地域の相談支援事業所や放課後等デイサービス事業所等の、民間レベルで連携し、意見交換等を行なう連絡会等の任意組織を自主的に構成し、地域の福祉向上に向けて積極的に活動しています。
	(30) 曰頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	○	○	・「連絡帳」も活用していますが、出来るだけ対面で保護者に活動内容や様子、連絡事項などを直接お伝えしています。また、家庭等での様子や取り組み等の把握にも努めています。
	(31) 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	—	○	・保護者向けの研修会は実施していません。むしろ、日常生活場面で使えるように、「関わるポイント」や「ほめ方」、「減らしたい行動」と「増やしたい行動」等の整理等をお伝えしてきました。
	(32) 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	○	○	・利用契約の際に説明しています。運営規定、重要事項説明書等に変更があれば、隨時説明し、同意をいただいています。
	(33) 保護者に対して面談や、子育て・進路等に関する助言等の支援が行われているか	○	▲	・発達のこと、社会活動のこと、将来のこと等、希望や不安等の相談に応じ、必要な情報提供や助言等を実施してきました。今後は、当方からもっと声掛けし交流する機会を持つるようにしていきたいと思っています。

	(34) 児童、保護者が一緒に活動できる機会の提案や、一緒に活動している他の利用児等との交流機会等の提供がなされているか	○：芋煮会等を実施している。	○	・保護者会は開催していません。しかし、行事活動等で、親子が一緒に活動する機会等を提案し、交流機会を提供しています。
	(35) 子どもや保護者からの苦情の受付体制を整備し、子どもや保護者に説明しているか。また苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	・苦情受付担当者、苦情解決責任者の体制があることを契約時に説明し、体制表を玄関に掲示しています。そこにはご意見箱も設置しています。定例の苦情解決委員会の開催や、受付時は必要な対応を迅速かつ丁寧に対応しています。
	(36) 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信しているか	○：子どもの活動の様子をアルバムで渡してくれた。	▲	・事業所独自の会報は発刊せず、ホームページに活動のトピックスを紹介しています。しかし、更新が年度途中から停滞している点と、更新した際に保護者に対する発信が十分でなかった点が、今後改善していきたいところです。
	(37) 個人情報に十分注意しているか	○	▲	・個人情報は、保護規定に沿って管理しており、安全に管理できています。今後、より良くしていくためにも、管理体制の強化や職員教育の継続等、さらに意識を高める取り組みをしていきたいと考えております。
	(38) 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	○	・情報伝達については、個々に合った伝え方を大切にしています。必要により、言葉以外の情報も活用し、わかりやすさを支援しています。
	(39) 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	—	○	・地域連携を重視した運営を行っています。具体的には、地域を招待する機会や、地域の子育て事業や福祉活動への参画をしています。 ・事業活動に、地域の方にアドバイザーとして指導していくなど、機会や、公民館や農協等の職員等からも協力を頂くなど、地域ぐるみの運営を行っています。
非常時等の対応	(40) 緊急時対応や、防犯、感染症等への対応についての手引きを策定し、保護者に周知されているか	○	○	・必要なマニュアルを整備し、業務上徹底した管理に努めています。 ・保護者にマニュアルは配布していませんが、これら内容がよりわかりやすく伝わるよう、事業所のオリエンションブック（利用マニュアル）内に必要な事項を入れ、説明しています。
	(41) 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	▲	▲	・法定訓練として、年2回以上の避難訓練を実施しています。また月1回の防災確認や訓練機会を実施しています。課題点は、職員及び多機能型で午前中に活動する未就学児等は毎回訓練参加ができるのですが、放課後等デイ児童の参加機会にはらつきがある点です。全児童に同様の機会を持つ工夫を行っていきます。
	(42) 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	—	○	・年1回は、全職員に法人内・外で研修する機会を持っています。また、日常活動でも、日々の確認体制を整え、指導管理を徹底しています。
	(43) どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	—	▲	・強度行動障害児等、活動に安全管理等が必要なケースでは、具体的な対応等を計画に盛り込み、その内容を説明し、同意を取っています。また、この対応を要する機会を出さない支援を第一義として管理しています。やむを得ず対応を要する時には、必要最小限の対応を行える支援体制を整備しています。 これまで、拘束等を行うことが無かった点は良い事ですが、このことが職員1人ひとりの意識低下に繋がらないよう、今後も日常から徹底したリスク管理に努めていきたいと思います。
	(44) 食物アレルギーのある子どもについて、医師指示書に基づく対応がされているか	—	○	・食物アレルギーの有無等については、利用開始時に必ず確認しています。対象児は、医師の診断書の提出をいただき、提供する給食の成分表の3重チェック（保護者、事業所、給食業者）を行った上で提供しています。また、日常のおやつ等の提供時も、個々の情報を把握したリスク管理を行っています。
	(45) ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	—	▲	・日々のチェック項目に入れて、支援者間でリスクの共有ができるています。顕在化したリスクの対応について、具体的にどうしていくかを組織的に吸い上げていく仕組みに、改善点があると感じています。
満足度	(46) 子どもは通所を楽しみにしているか	○：通所してから、子どもが少しずつ成長しているのがわかる。	▲	・肯定的で、安心感の高い環境下で、子どもたちは楽しみながら学習を進められており、通所を楽しみにしていただいているようです。一方で、職員の意識として、現状よりももっと小さな声を丁寧に拾い、子どもたちが心から参加したいと思える環境づくりを必要と思えるよう、指導していきたいと感じています。
	(47) 事業所の支援に満足しているか	○：日常生活でしなければいけないこと（小さな事）もポイントを大切に支援してくれている。	▲	・当事者を主体としながらも、子どもの成長に必要な機会提供に関しては、保護者と共に工夫して進めて行くことが最も重要だと思っています。今後とも、色々な意見や意向を賜りながらも、共に悩み、考え、活動できる事業所づくりを続けていきたいと思っています。

職員の配置状況（平成31年2月15日現在）

施設長：1名、児童発達管理責任者：1名（施設長と兼務）、保育士：7名、児童指導員：3名

職員の資格 等（平成31年2月15日現在）

社会福祉士：3名、介護福祉士：3名、保育士：7名、児童指導員：3名、
強度行動障害支援者研修修了：2名、SST社会生活技能訓練：1名
職場適応援助者（ジョブコーチ）：1名 など